

第57回

近畿高等学校登山大会

2011

平成23年9月9日(金)～11日(日)

左京区 芦生



主 催	近 畿 高 等 学 校 体 育 連 盟
	京 都 府 教 育 委 員 会
	京 都 市 教 育 委 員 会
後 援	京 都 府 山 岳 連 盟
主 管	近 畿 高 等 学 校 体 育 連 盟 登 山 部
	京 都 府 高 等 学 校 体 育 連 盟 登 山 部

丹波の山懐に抱かれて

京都府高等学校体育連盟登山専門部
部長 勝田 尊博

山をこよなく愛する各選手、顧問の先生方、大会関係者多数の皆さんをここ京都北山山地にお招きし、第57回近畿高等学校登山大会を開催できますことを心よりうれしく思います。

京都市内中心部の随所から北方向を眺めると、北東の比叡山と北西の愛宕山を両端に、遙か彼方、小高い山嶺がいくつも重なり合い、空をキャンパスにまるで絵画のごとく山々の稜線が浮かび上がります。本大会で選手の皆さんが縦走するのは、まさにこの北山山地であり、標高1,000mに満たない山々ですが、森の奥深くは、豊かな水系と深い谷によって、深山の趣を感じさせます。古来より人々の生活が営まれ、郷愁を感じさせる山里が点在する一方で、大雪などが原因で廃村になった屋敷跡などが無常の哀愁を漂わせます。また、コースの途中にある佐々里峠は標高700mを超し、ブナやミズナラなどが多く繁り、紅葉の季節には見事な色づきを見せ、登山愛好家たちの隠れた名所となっています。

この一帯に降った雨の行方が実に興味深く、尾根北西側の雨しずくは由良川の源流となって日本海へ、南東側の雨しずくは保津川、観光名所嵐山を流れる大堰川、淀川となって太平洋へと流れることとなります。この境界線を中央分水界といい、ちょうど佐々里峠がこれにあたります。第1日目はこの後、有名な芦生の京都大学研究林に入ります。北山は一大林業地帯で、人工林や研究林など人の手が加えられているところも多いのですが、極めて自然度の高い森も残っています。途中、通過する廃村を含めて、丹波の山々には古来の人々の自然との関わりや生活の跡、歴史が数多く秘められており、選手の皆さんには、日本の歴史風土の原点を少しでも感じ取ってもらえると幸甚です。

本大会のコースでは、難所がたくさんあります。特に、急勾配の斜面、滑りやすいところや岩場、落石などにも細心の注意を払い、事故の無いようチームプレーで乗り切って下さい。また、競技の最中は高度な集中力と精神力などが求められますが、是非、大自然との一体感、眺望のすばらしさも味わうなど、山を楽しむ余裕は忘れないでください。同時に他校チームとの交流を深め、互いに学びあい、切磋琢磨してくれることを心から願っています。そして、このような大会を経験するなかで、それぞれのチームが自らの課題をしっかりと捉え、克服に向けた努力を重ねながら、来年度、新潟県苗場山で行われる全国大会に繋がるよう、ステップアップの場にして下さい。選手の皆さんが力を合わせて、自らの能力の限界に挑戦し、ベストを尽くしてくれることを大いに期待しています。

最後になりますが、本大会開催にあたりご支援・ご協力を頂きました地元の方々、選手をご指導頂いています顧問の先生方、大会運営にご尽力頂きました役員の方々に厚くお礼を申し上げますとともに、大会が成功裏に終わりますことを祈念申し上げ、挨拶といたします。

大会役員

1. 名誉会長	田原 博明	(京都府教育委員会 教育長)
2. 会長	江畑 政彦	(近畿高等学校体育連盟会長)
3. 副会長	飯田 賢良	(近畿高等学校体育連盟副会長)
	猪飼 和雄	(近畿高等学校体育連盟副会長)
	井岡 陽子	(近畿高等学校体育連盟副会長)
	田村 登志樹	(近畿高等学校体育連盟副会長)
	山本 誠三	(近畿高等学校体育連盟副会長)
	勝田 尊博	(近畿高等学校体育連盟登山専門部部长)
	渡邊 孝	(京都府教育委員会 体育主管課長)
	山本 雅之	(京都府教育委員会 体育主管室長)
4. 顧問	大橋 通夫	(京都府教育委員会 教育委員長)
	藤原 勝紀	(京都市教育委員会 教育委員長)
	高桑 三男	(京都市教育委員会 教育長)
	宮野 文穂	(京都府教育委員会 教育次長)
	枅岡 義明	(京都府体育協会 会長)
	林 辰夫	(京都府山岳連盟 会長)
5. 参与	宮永 幸男	(京都府山岳連盟 理事長)
	森田 育孝	(京都市教育委員会 体育主管課長)
	道越 隆夫	(京都府体育連盟 副会長)
	玉木 正弘	(京都府体育連盟 副会長)
	倉垣 誠	(京都府体育連盟 副会長)
	北川 憲一郎	(大阪府教育委員会 体育主管課長)
	永井 邦治	(兵庫県教育委員会 体育主管課長)
	金山 昭夫	(滋賀県教育委員会 体育主管課長)
	柴田 秀治	(奈良県教育委員会 体育主管課長)
	土肥 二郎	(和歌山県教育委員会 体育主管課長)
	日比野 幹生	(和歌山県教育委員会 体育主管課長)
	布本 俊一	(滋賀県高等学校体育連盟登山専門部部长)
	猿田 茂	(大阪高等学校体育連盟登山専門部部长)
	深田 俊郎	(兵庫県高等学校体育連盟登山専門部部长)
	宮田 康和	(奈良県高等学校体育連盟登山専門部部长)
	井上 雅雄	(和歌山県高等学校体育連盟登山専門部部长)
6. 大会委員長	山崎 政範	(近畿高等学校体育連盟理事長)
7. 大会副委員長	鎌原 伸博	(近畿高等学校体育連盟登山専門部委員長)
	船田 一彦	(兵庫県高等学校体育連盟理事長)
	岸本 英幸	(滋賀県高等学校体育連盟理事長)
	和田 俊廣	(奈良県高等学校体育連盟理事長)
	大村 哲司	(和歌山県高等学校体育連盟理事長)
	角井 弘之	(京都府高等学校体育連盟理事長)
8. 委員	北村 仁司	(滋賀県高等学校体育連盟登山専門部委員長)
	川端 章治	(大阪高等学校体育連盟登山専門部委員長)
	桑田 克治	(兵庫県高等学校体育連盟登山専門部委員長)
	小原 庄之助	(奈良県高等学校体育連盟登山専門部委員長)
	沼野 正博	(和歌山県高等学校体育連盟登山専門部委員長)
	安田 千尋	(京都府教育委員会 体育主管課担当職員)
	加藤 英二	(京都府教育委員会 体育主管課担当職員)

実 施 要 項

1. 主 催 近畿高等学校体育連盟
京都府教育委員会
京都市教育委員会
2. 後 援 京都府山岳連盟
3. 主 管 近畿高等学校体育連盟登山部
京都府高等学校体育連盟登山部
4. 期 日 平成23年9月10日(土)～11日(日)
5. 山 域 芦生周辺山域
6. 日 程 9月9日(金)
審査会議 16:00～17:00 芦生山の家
9月10日(土)
計画輸送 8:15～8:30 京都駅八条口バスプール発
受付(監督・選手) 10:30～10:50 京都バス下野町バス停
受付(役員他) 8:00～8:10 芦生山の家
審査会議 8:10～9:30 芦生山の家
開会式 11:00～11:20 京都バス下野町バス停前広場
登山行動 11:30～15:30 菅原集落(パーティー行動)
天気図 16:00～16:40 芦生キャンプ場横本部内
知識 16:00～16:10 芦生キャンプ場横本部内
幕営・炊事 16:50～ 芦生キャンプ場
就寝 21:00 就寝完了
9月11日(日)
起床 4:00
炊事・撤収 4:00～6:00
集合 6:00
登山行動 6:15～11:00(パーティー行動)
閉会式 11:30～12:00 京都バス下野町バス停
計画輸送 12:30～14:30 京都駅八条口バスプール至
7. コース 第一日目 京都バス下野町バス停～菅原バス停～ダンノウ峠～
佐々里峠への尾根～佐々里峠～麩野谷～麩野～芦生幕営地
第二日目 幕営地～麩野～麩野谷～佐々里峠への尾根～小野村割岳への尾根
～早稲谷～下野町バス停前広場
8. 参加資格 各府県高等学校体育連盟登山専門部に加盟している高等学校生徒で、予め健康診断
を受け、各府県の予選または推薦による参加資格を得た者。
9. 参加チーム (1) 参加チーム数42(各府県7チーム)
(2) 1チームは選手4名・監督1名で、選手の男女混合は認めない。
10. 参加費 (1) 1チームあたり25,000円(保険・その他諸経費を含む)
(2) 参加費用は申し込み時までに、下記口座に振り込みで送金してください。
振込銀行 京都銀行 出町支店 普通
京都府高等学校体育連盟登山専門部会計 鎌原伸博
(3) 参加費は大会が中止された場合でも、全額返金できない場合があります。
11. 参加申し込み (1) 所定の「参加申込書」に必要事項を記入して、各府県専門委員長に提出すること。
(2) 参加費を送金した受領書をコピーして「参加申込書」の裏面に貼り付けること。
(3) 各府県専門委員長がとりまとめ、下記期日までに郵送すること。

締切日 平成23年7月20日(水)
郵送先 〒600-8267 京都市下京区大宮通七条上ル
龍谷大学付属平安高等学校 東 弘道
TEL 075-361-4231 FAX 075-344-4603

12. 連絡事項

- (1) A,B,C 隊上位3チームを表彰する。
- (2) 監督は、選手を引率しその行動に責任を持つこと。
- (3) B6以上の大きさのゼッケンをザック・ザックカバーにつけ、府県名とチーム名を明記すること。また上着ポケット付近・雨具の上に、府県名とチーム名を明記すること。いかなる場合でも、県名・チーム名が判読できる十分な大きさを明記しておくこと。
- (4) テント・フライにも府県名と学校名を記入すること。
- (5) 残暑・降雨・防虫・やまびる・まむしそれぞれの対策を十分に体力・技術トレーニングを積んで参加すること。
- (6) スタート地点及びコース上には水場がないので、それまでに十分給水しておくこと。
- (7) 1泊2日の山行に必要な装備・食料などを携行するとともに、登山に適した靴・服装で参加すること。チーム間の貸借は認めない。
- (8) ガソリン・薪の使用及び合成洗剤の使用は禁止する。
- (9) ゴミの量は最小になるよう工夫し、必ず持ち帰ること。
- (10) 国土地理院発行の25,000分の1地形図「久多」「中」を携帯すること。
- (11) 天気図用紙を装備として持参のこと。
- (12) 下敷き、赤、青、黒色のボールペン等の筆記具を持参すること。
- (13) 下見などでコースに標識をつけないこと。
- (14) 監督は、食事・宿泊とも選手と一緒にすること。
- (15) 監督は1日目・2日目ともに隊の最後尾を歩くこと。
- (16) その他の連絡事項は、大会当日に伝える。メンバー全員に周知徹底を図ること。
- (17) 選手・監督共にザック輸送はおこないません。
- (18) 問い合わせ先は、大会申込先とする。

第57回近畿高等学校登山大会式次第

司会 東 弘道
京都府高体連登山専門部

開会式 平成23年9月10日(土) 11:00~

左京区 下之町

あいさつ	近畿高等学校体育連盟登山専門部専門部長	勝田 尊博
審査員紹介	審査委員長(滋賀県高体連登山専門部委員長)	北村 仁司
審査上の注意	審査委員長	北村 仁司
登山行動中の注意	京都府高体連登山専門部委員長	鎌原 伸博
諸連絡	京都府高体連登山専門部	東 弘道

閉会式 平成23年9月11日(日) 11:30~

左京区 下之町

講評と成績発表	審査委員長	北村 仁司
表彰	近畿高等学校体育連盟登山専門部専門部長	勝田 尊博
あいさつ	近畿高等学校体育連盟登山専門部専門部長	勝田 尊博
次年度開催県 あいさつ	滋賀県高体連登山専門部委員長	北村 仁司
諸連絡	京都府高体連登山専門部	東 弘道

第57回近畿高等学校登山大会審査基準・方法

2011.9.10～11

日	No.	項目	配点	審査基準	備考
第 一 日	1	踏査 ・ 縦走	15	読図点10点 5ポイント置く。 直径2mmの円内2点, 直径4mmの円内1点 踏査競技用地図と記録帳の提出をもって踏査競技 ゴールとする。 菅原京都バス停 ダンノ峠 品谷山分岐 佐々里峠 灰野谷 芦生幕営地	踏査競技用地図は、スタート時に配布する。 男女とも同一コースとする。黒色筆記具で ポイントフラッグの位置をコースに直交す る交点で示し、フラッグに付されている記 号を記入する。訂正は、矢印で示し、同ポ イントで複数矢印のある場合は最終矢印の 終着点と判断する
				時間点20点 男子3時間 女子3時間30分 *1分を越える毎に0.5点減点とする	
	2	装備	5		踏査ゴールで行う。
	3	計画書	5	5項目 各1点	天気図審査時に提出のこと。
	4	天気図	5	各地の天気、前線と高気圧H・低気圧Lの位置等 圧線・完成度、予報・解析	放送終了後20分で提出。
	5	知識	5	地形、動植物、救急法、登山技術等に関し基礎知識を問う。	天気図作成者以外が受験する。
	6	設営	10	10分以内に設営完了。 テント内外の整理・整頓など。	3名で行う。4:30スタート
	7	炊事	10	食糧計画との一致、炊事開始後1時間以内で食べ 始める等。	設営審査後、一斉に炊事を始める。
8	記録	2	地点確認(地点名、通過時刻など)、コースの状態、 地形、植生、天候、メンバーの体調、伝達事項等記録 記載の有無。	記録帳、踏査用地図の提出をもっ てゴールとする。	
第 二 日	9	踏査 ・ 縦走	15	読図点10点 5ポイント置く。 直径2mmの円内2点直径4mmの円内1点 踏査競技用地図と記録帳の提出をもって踏査競技 ゴールとする。 芦生幕営地 灰野谷 小野村割岳 早稲谷 下の町京都バス停	踏査用地図は、スタート時に配布する。 男女とも同一コース。
				時間点20点 男子4時間, 女子4時間30分 *1分を越える毎に0.5点減点とする	
	10	装備	5		縦走ゴールで行う。
11	記録	3	地点確認(地点名、通過時刻など)コースの状態、地形 、植生、天候、メンバーの体調、伝達事項など記録記載 の有無	記録帳の提出をもってゴールとする。	
両 日	12	マナー	10	全般にわたって行う。集合状態、ゼッケン、就寝状態、 パーティ分離、ゴミの持ち帰りなど。	守られない場合、減点の対象となる。

* 所定のコースを踏破しなかったチームには順位をつけない。

* 審査基準は、一部変更することもある。変更の場合は、事前に連絡する。

選手・監督名簿

=監督 =リーダー

《滋賀県》

男子	守山 膳所A 甲西A 八幡工業 八幡 膳所B 甲西B	小林 広幸 田中 良 松本 睦 岩崎 昭憲 後藤 雅明 山田 喜明 林 克彦	森 崇裕・瀧本 圭佑・岡本 壮志・福原 裕志 真鍋 景人・古川 暁之・枝 知樹・高野 稜馬 山本 尚路・上野 達哉・長坂 一輝・黒田 恭平 上杉 雅斗・神田 和勝・山本 陵真・伊東 勇輔 高田 修平・増川 滉章・平田 和暉・岩本 真樹 橋詰 知輝・北村 俊也・大崎 颯之・西村 凌征 脇岡 翔一・福永 佑哉・土野 晶也・堅田 翔伍
----	--	--	---

《和歌山県》

男子	橋本A 田辺A 田辺B 橋本B 和歌山	木村 一之 土永 浩史 土永 浩史 貴志 薫 加賀谷信之	井原 健太・海立 昌吾・五味多 光・武部 有治 榎本 大誠・谷河 育朗・森下 浩行・那須 瑞生 上垣 紀之・松本 崇志・榎本 圭祐・釣本 浩貴 井開 柗太・向井 靖登・稲家 佑一・井上 領太 山村 一輝・南 勇臣・梅澤 直希・戸上 賢也
女子	田辺 和歌山	土永 浩史 林 靖之	西岡あかね・町田 葵・久保 晴菜・坂本花央里 小谷 風華・松本 梓穂・柑本佳菜子・仲前 心晴

《大阪府》

男子	近大附属 都島工業 茨木工科	村田 実 久壽 裕人 西畑 賢	中栖 久昌・建林 貴裕・山田 崇文・松宮 暢之 川楠 良輔・福西 光明・大野 慎悟・岸本 健一 江本 和馬・栗山 将大・杉崎 貴優・丸尾 知哉
----	----------------------	-----------------------	---

《兵庫県》

男子	三田学園 柏原 神戸 長田 加古川西	松本 和也 横山 昌弘 繁戸 克彦 浜本 芳真 西面 尚史	櫃石 智也・松井 惇史・三輪 俊雅・酒井 駿輔 岸本 祐也・植田 尚輝・若林 誠・由良 維斗 神吉 隆行・松本 翔太・出原 信大・大西 謙也 伏見 修一・下川 和己・長門 広洋・松岡 弘樹 三好純太郎・塩本 啓一・打田 智裕・石橋 武久
女子	御影 神戸	石井 基晴 繁戸 克彦	清水 江実・森本 楓・猪俣 愛・小島あかり 高山真由子・後藤 七海・大越 菜那・木村瑠々花

《奈良県》

男子	郡山A 郡山B 奈良朱雀 畝傍 添上	西脇 千賀 増田 正博 岡田 安博 上野 仁 植田 茂史	武田 大樹・榎本 皓太・岡田 拓朗・田中 大輝 今中 亮平・濱田 真路・澤 豊文・井上健一郎 堀川 拓也・上甲 勝之・中井 基理・田端 迪尋 吉田 一将・細川 翔・藤井 規史・西谷 友佑 松浦 慎介・嶋田 聡・古地 弘樹・山下 竜儀
----	--------------------------------	--	--

《京都府》

男子	洛東 同志社 洛星 龍大平安 京産大附属 北桑田	實本 正樹 下庄 秀生 堀井 純 泉 政満 北側 祥規 安藤 孝司	森坂 祐哉・南 雄輔・金山 達登・海川 信人 宇野 悠真・横田 雅樹・後藤 雅人・生島 諒一 松原 良一・澤邊 一生・中村 剛・木下 諒 寺西 龍明・藤原 秀織・長畑 朋弥・高島僚太郎 細尾 圭一・魚水 康平・上前 大地・越川 壮 藤中 竜司・小林 佑輔・村田 夏基・菅河 護
女子	京産大附属	北側 祥規	三浦 明・門谷 朋美・池田 悠・片岡 静香

登山隊編成

隊	学 校 名 (府県名)	監督 人数	選手 人数	人数 計
A	守山 (滋賀)・都島工業 (大阪)・郡山A (奈良) 柏原 (兵庫)・北桑田 (京都)・田辺A (和歌山) 甲西A (滋賀)・奈良朱雀 (奈良) 長田 (兵庫)・同志社 (京都)・橋本B (和歌山) 八幡 (滋賀)・添上 (奈良) 膳所B (滋賀)・神戸 (兵庫)・近畿大学附属 (大阪)	16人	64人	80人
B	橋本A (和歌山)・三田学園 (兵庫)・洛星 (京都) 郡山B (奈良)・膳所A (滋賀) 田辺B (和歌山)・洛東 (京都)・加古川西 (兵庫) 畝傍 (奈良)・八幡工業 (滋賀)・茨木工科 (大阪) 甲西B (滋賀)・和歌山 (和歌山)・龍谷大平安 (京都) 京都産業大学附属 (京都)	15人	60人	75人
C	田辺 (和歌山)・御影 (兵庫)・京都産業大附属 (京都)・神戸 (兵庫) ・和歌山 (和歌山)	5人	20人	25人
参加チーム 36チーム 監督 36人 選手 144人 総計 180人				

出発予定時刻

第 1 日 出発時刻	第 2 日 出発時刻	A 隊	B 隊	C 隊
10:10	6:15	田辺 A (和歌山)	三田学園 (兵庫)	御影 (兵庫)
10:11	6:16	柏原 (兵庫)	橋本 A (和歌山)	京産大付属 (京都)
10:12	6:17	北桑田 (京都)	京産大付属 (京都)	田辺 (和歌山)
10:13	6:18	都島工業 (大阪)	茨木工科 (大阪)	神戸 (兵庫)
10:14	6:19	守山 (滋賀)	膳所 A (滋賀)	和歌山 (和歌山)
10:15	6:20	郡山 A (奈良)	郡山 B (奈良)	
10:16	6:21	同志社 (京都)	加古川西 (兵庫)	
10:17	6:22	八幡 (滋賀)	田辺 B (和歌山)	
10:18	6:23	長田 (兵庫)	八幡工業 (滋賀)	
10:19	6:24	添上 (奈良)	洛星 (京都)	
10:20	6:25	近畿大付属 (大阪)	畝傍 (奈良)	
10:21	6:26	膳所 B (滋賀)	和歌山 (和歌山)	
10:22	6:27	橋本 B (和歌山)	龍谷大平安 (京都)	
10:23	6:28	神戸 (兵庫)	甲西 B (滋賀)	
10:24	6:29	奈良朱雀 (奈良)	洛東 (京都)	
10:25	6:30	甲西 A (滋賀)		
10:26	6:31			

コース概要 1日目

京都バス・下之町バス停前の開会式場をスタートすると、府道38号沿いを500mほど北西へ進む。佐々里峠の尾根を分水嶺とする小川を左に見ながら道路は右側通行したい。めったに車の走らない道路ではあるが、週末は多少の車やオートバイが通行するので注意したい。

菅原バス停前の菅原大橋を渡り、右手の仏谷川沿いに集落の中を歩く。集落の最後の家を超えたところで、左右に道が分かれる。左手の道を行けば、折谷から衣懸坂に登ることができる。今回は右の道をとる。左手には石垣で整えられた田圃があるが、いつの間にか休耕田となっていて、また獣よけのネットが取り付けられるようになっていて、過疎化と里山の荒廃を認識させられる。やがて一軒家が見えてくる。一軒家でアスファルトの道が終わり、そこからは林道となり、道は杉の植林地の中を進んでいく。小さな砂防ダムを見て、丸太で作られた橋を超え、左手の小さな祠を見つければ、目の前にダンノ峠の登り口がある。ダンノ峠へは谷筋と尾根筋の道があるが、今回は尾根筋の道をとる。左右の谷に流れる小川のせせらぎと鳥のさえずりを聞きながら急登を登る。春にはイワウチワの花をこの尾根でみることができる。しかし、最近はこの付近でもヒルを見かけるようになったので注意が必要である。右手の谷筋に道を取り、さらに右の尾根よりに道をとればダンノ峠にでる。このダンノ峠から下れば廃村八丁に向かうが、今回は北の尾根へと道をとる。

ダンノ峠は京都市右京区京北町と左京区との境界上に位置している。これ以後コースは、ほぼこの境界線に沿って尾根を北に歩くことになる。しばらく杉の巨木が所々にあるやや傾斜のある登りである。東に張り出している支尾根との合流地点を西北へ折れると道は雑木帯の中となり、やがて雑木が切れて明るくなった地点へ出る。振り返ると比良連峰を遠くに望むことができる。ここは、先の区の境界に南丹市美山町を加えた3行政区の境界地点でもある。この尾根の北西側の水は由良川から日本海へ、南東側の水は保津川・淀川を経て太平洋へと流れることになる。いわゆる分水嶺でもある。

コースは、品谷山分岐を左に見て尾根を北上し、佐々里峠へと向かって下る。途中、1ヶ所急な下りがあるのでスリップ、落石などに注意が必要である。コースの右側が植林帯となり展望が開けると、佐々里峠へ向かう車道のガードレールが見える。佐々里無線中継塔を過ぎ、階段状の道をおりると車道にでる。ここが峠になる。

佐々里峠の車道横には石室があり、その中にはお地蔵さんが祀られている。峠からは石室の横のハシゴを登り、先の分水嶺をなす尾根に沿って穏やかな上り下りを繰り返すコースになる。ここからのコースは、今回のコースの中で最もブナの多い樹林帯であり、灌木も少なく心地よい。840mピーク下をトラバースしてコースは北西に張り出した支尾根に移る。このあたりは、平成9年度京都総体時は丈の高いクマザサに覆われて鬱そうとした尾根であった。しかしこの10年来、鹿の食害でそういったクマザサがすっかりなくなり、歩きやすく展望もよくなった反面当時の面影は一掃された。813mのピークを横切ると間もなくコースは北へ張り出す支尾根沿いを北上する。灰野谷に下り始めのトラバース気味の道は少しの間だけやや狭い。やがてコースは折り返しジグザグになり、谷へ降りる。この部分の道もかなりの傾斜であるので、スリップなどに注意したい。

小さな流れを数回渡渉するとコースは次第に沢筋を離れ、左岸側の山をトラバースすることになる。左から張り出している顕著な尾根を過ぎると、再び沢に向かったのジグザグの下降となる。沢に沿ってしばらくするとトロッコ軌道が見え、灰野に着く。

灰野からは軌道に沿って由良川源流の美しい流れを右に見ながらしばらく歩くと一軒家が見えてくる。この家が今回の幕営地を管理されているNPO法人の代表、井栗氏宅である。家の前の

田園の間を通り抜け、井栗氏の自宅裏にでて由良川を渡る。この渡渉時に使用する橋は置き橋で、水量が多いときには流されることもあるので、気象状況次第では幕営地には別ルート(別紙参照)で入らなければならないことも考慮しておくこと。

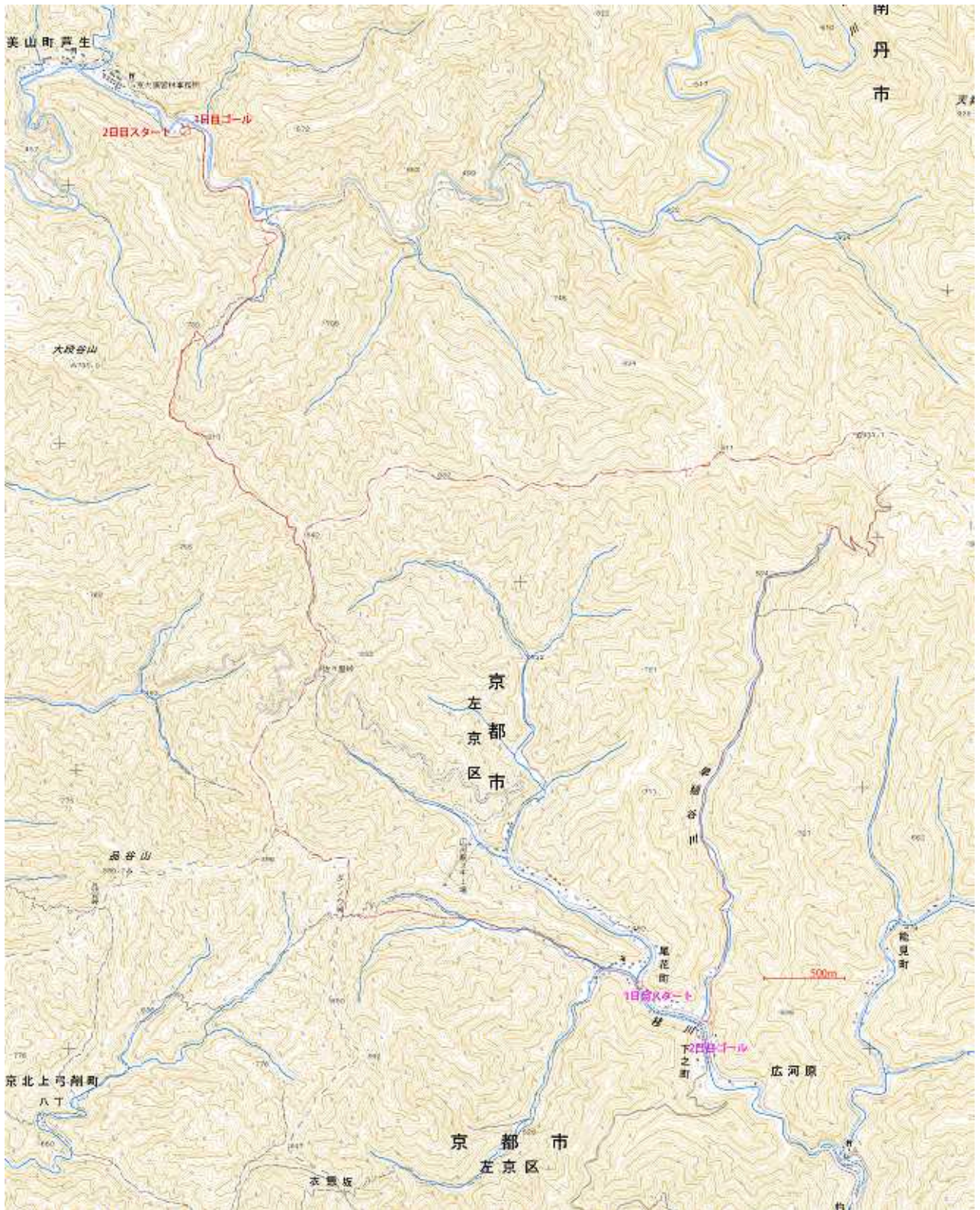
コース概要 2日目

2日目は1日目のコースを折り返す。灰野谷から尾根に上がり、大段谷山との分岐を佐々里峠へ向かう尾根を進むが、840のピークをトラバースし、再び尾根に戻ったところが小野村割岳への分岐点となる。鋭角に曲がり、標識は無く、見落としやすいので注意したい。840のピークを越えたところから小さなアップダウンを繰り返しながら東へ、北へ、さらには東へと尾根を外さないように進む。832のピークを過ぎ、雷に打たれ焦げ割れたような杉を見ながらやや痩せた尾根を過ぎると、やがて尾根が大きく開けてくる。ここが赤崎尾根分岐点で、通称「雷杉」と呼ばれる幹が中空となった杉の古木が立っている。北へ向かう尾根には入らないように注意したい。周辺には芦生杉の大杉が林立し、またブナやナラの広葉樹が枝葉を広げ、しばし憩い、自然の恵みを満喫するには最高のスポットである。

雷杉をさらにアップダウンを繰り返しながら東へと進む。京都北山でも随一と言える雄大な尾根で、尾根筋にはその命の営みをさまざまな姿に変えた芦生杉の古木が並び、まるで自然の織りなすオブジェの中を進むかのようなようである。ブナやナラ、トチの広葉樹が吹き抜ける風に葉音を立て、実に心地よく響く。

小ピークを越え、茂みを回り込んだところに分岐点があり、踏み跡が広河原パス停へと続いている。コースを誤りやすいポイントである。注意したい。そこを左にとり、しばらく進むと911のピークに出る。そこはトロッコ道との分岐点になってる地点だが、道祖神のごとく杉の巨木がすっと立ち、道を示してくれている。そこを右にとれば今回のコースで最高標高を持つ目指す小野村割岳(931.7m)はもうすぐである。

小野村割岳のピークからは、東方に比良山系の山々蓬萊山や打見山が眺望できる。ここからは主尾根を離れ、南に向かう支尾根を下る。沢に突き当たる手前はかなりの傾斜になっており足元には十分気をつけたい。この小さな沢を越えると林道に出るが、この林道は近年使用されておらず相当荒れていて、大きな岩、石がごろごろして歩いて歩にくい箇所もある。左手に滝が見えてくるとコースは北・南へとジグザグに下り早稲谷に入っていく。早稲谷川は急な傾斜を持っているため大雨が降ると鉄砲水を出す危険性をはらんでいる。事実、平成9年の京都全国総体の際は増水氾濫のためにフィックスロープを張り選手を誘導したこともある。そういう歴史を持つ川でコース上には大きな石や岩が突き出ているので、車止めが見えてくる地点までは注意をして歩きたい。車止めからあとはガラガラ続く林道で閉会式場である下之町のバス停まで一気に下りたい。



京都北山、芦生周辺の地形と地質

地形

京都市から福井県にかけて、北山と呼ばれる標高の低いなだらかな高原状の山地が続く(一般に、北山は、琵琶湖の西側の急傾斜の断層崖をもつ比良山地は含まない)。北山の最高峰は971.5mの「皆子山」で、1000m以上の山頂をもたない。京都府は、1000m以上の山をもたない日本で数少ない都道府県の一つである(千葉県、京都府、沖縄県の3府県のみ)。

図1は、北山の埋積接峰面図である。埋積接峰面図とは、一定の幅以内の谷を埋め等高線を引き直して作成した仮想の地形面で、地形の概観をつかむためにしばしば用いられる図である。接峰面の中の高度が急変するところは地盤運動による断層崖であることが多い。この図を見ると、北山最高峰の皆子山や第二位の峰床山(標高970.0m)などが東方に集まり、北山は東が高く西に緩やかに傾動していることがわかる。北山にみられる活断層は、北山東縁の花折断層が目立つ他、南西部の周山断層や殿田・越畑断層が有名で、これらは、ずれの方向から東西圧縮を受けて形成されたことがわかっている。

水系は、北東部が安曇川水系、南部が鴨川水系、南西部が桂川水系、北西部が由良川水系に分かれ、福井県側が南川水系となっている。

今回のコースとなっている芦生周辺は、北山の中でも最北部に位置し、700~900mの山々が続いている。尾根付近には比較的平坦な小起伏面がみられる。佐々里峠から小野村割岳にかけての幅広い平坦な尾根や、由良川最上流部の上谷・下谷付近がそうである。長治谷作業場のあ

るあたりでは、周囲の山々は丘陵のように低くなだらかに見える。これらの小起伏面は、かつて侵食がすすんで平坦になった面が隆起して、現標高まで持ち上げられて形成された隆起準平原と説明されることが多い。

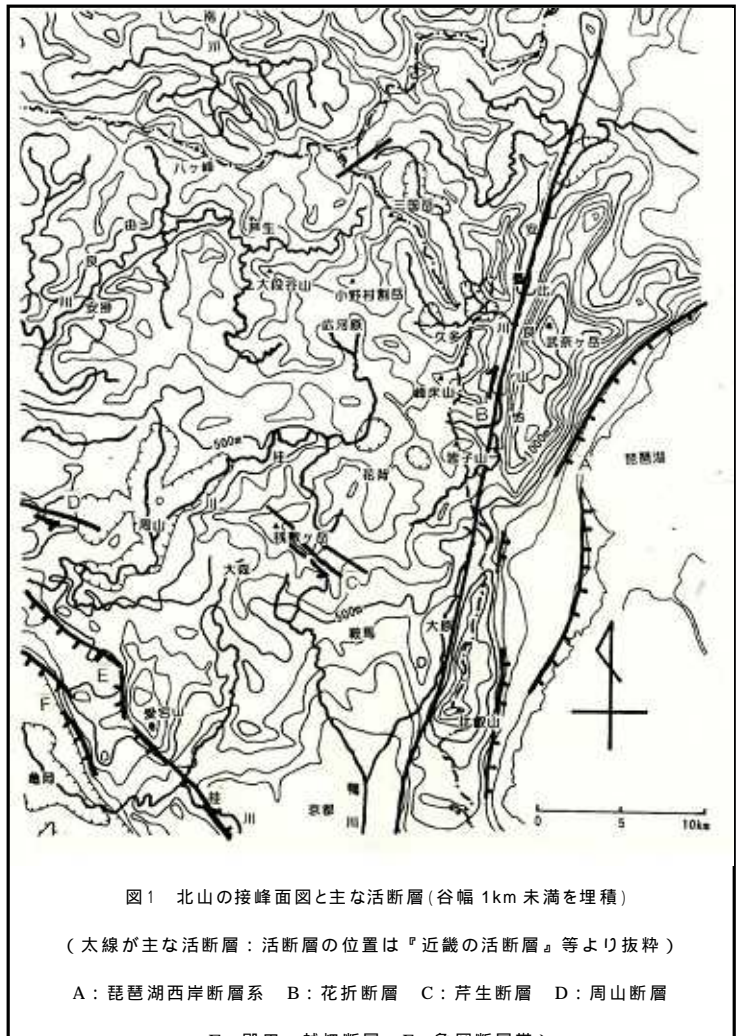


図1 北山の接峰面図と主な活断層(谷幅1km未満を埋積)
(太線が主な活断層:活断層の位置は『近畿の活断層』等より抜粋)
A:琵琶湖西岸断層系 B:花折断層 C:芦生断層 D:周山断層



図2 由良川の流路(枠内は図1の範囲)

芦生周辺山域を流れる河川は由良川の最上流部にあたる。日本海に注ぐ由良川は、日本でも水害の多い河川として有名である。これは、中流部の福知山周辺が盆地状の地形になっているのに対し、下流部は山地が両側から迫り平野部が狭いため堤防が築かれておらず、洪水時には上流から流れてきた水が簡単に河道から溢れるため、2004年の台風23号災害時には、下流地域で由良川沿いの多くの



図3 由良川最上流部、長治谷合流点付近

田畑が冠水し、国道を走っていた観光バスが水没するなどの被害が生じた。由良川は和知より上流側では、谷底平野はほとんどみられなくなり、芦生周辺では深い峡谷となる。支谷も急流で、中ノツボ谷や三国岳直下の大谷には多くの滝がかかっている。

幕営地の南側に位置する大段谷山の尾根から中腹にかけては、由良川が下刻する急斜面がやや緩やかになっている。等高線も大段谷山の北斜面だけやや疎らになっている。これは、地すべり地形で、表面の土塊が重力により下方へ滑って形成されたものである。



図4 由良川上流大谷の滝

地質

京都の北山の地質は、海底に泥が堆積して固結した頁岩、海底火山活動による溶岩や火山砕屑岩などからなる緑色岩類、放散虫（ほうさんちゅう）などの生物の遺骸が海底に堆積して固結したチャート、海溝部に砂や泥が堆積し固結した砂岩・泥岩互層などからなる地層で、丹波層群とよばれる。海底に堆積したのは古生代石炭紀から中生代白亜紀にかけてである。その頃日本列島は存在せず、海底に堆積した地層がプレートとともに、海溝部に沈み込み、大陸側に付加して形成された。

丹波層群は、走行はほぼ東西で、大きくI型とII型地層群に分けられる。I型地層群は主に三畳 - ジュラ系からなる相対的に地質年代が新しく、II型地層群は石炭 - ジュラ系からなるもので、I型地層群の上に低角の衝上断層により載り上がっている（京都府 2002、日本の地質『近畿地方』編集委員会 1987）。

芦生付近の地質は、主に頁岩からなるが、チ

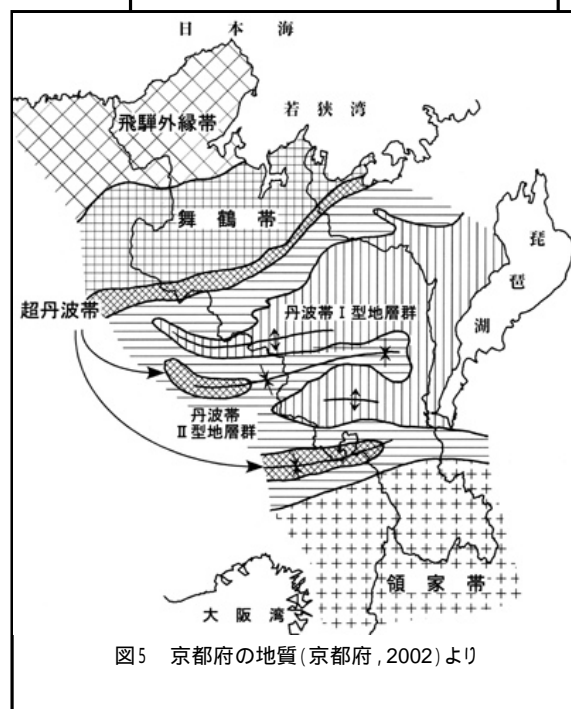


図5 京都府の地質(京都府,2002)より

チャートからなる地域もみられる。中でも八丁付近には比較的連続性のよい厚層のチャートがみられる。チャートは硬いため、侵食抵抗性が高く、例えば早稲谷上流部の遷急点などにみられるように、小起伏面をつくる一つの要素になっている。

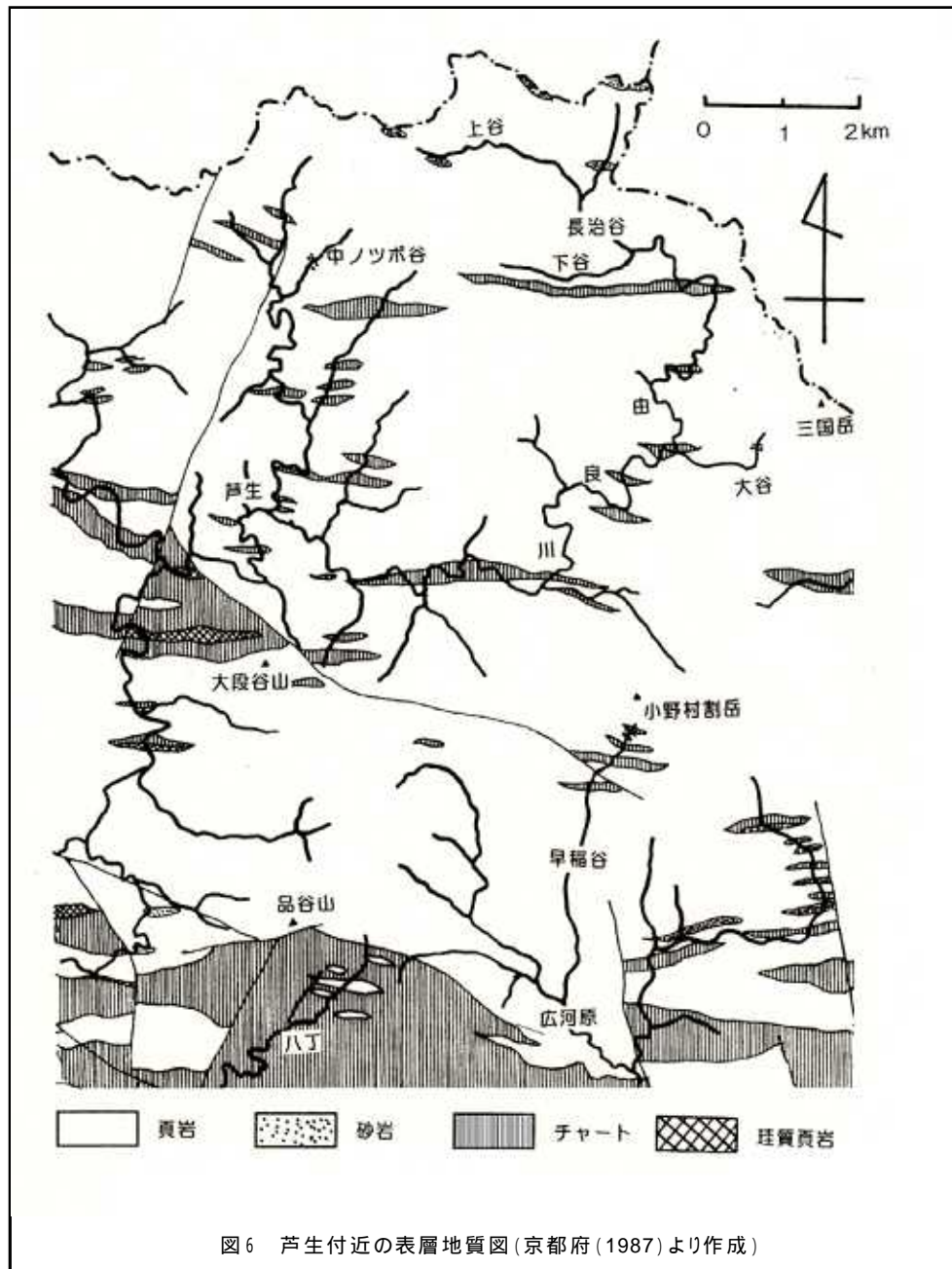


図6 芦生付近の表層地質図(京都府(1987)より作成)

文献

京都府(2002):『京都府レッドデータブック 下巻 地形・地質・自然生態系編』.
 京都府(1987):『土地分類基本調査「四ッ谷、小浜、北小松、熊川」』.
 日本の地質『近畿地方』編集委員会(1987):『日本の地質 近畿地方』共立出版.
 岡田篤正・東郷正美編(2000):『近畿の活断層』東京大学出版会.

小野村割岳 周山 久多 安掛 芦生 広河原 花背 鞍馬 大森 亀岡 京都 大原
 比良山地 愛宕山 棧敷ヶ岳 三国岳 峰床山 皆子山 武奈ヶ岳 大段谷山 八ヶ峰
 比叡山 安曇川 桂川 鴨川 南川 由良川 琵琶湖 愛宕山

棧敷ヶ岳 三国岳 峰床山 皆子山 武奈ヶ岳 大段谷山 八ヶ峰 比叡山 芦生 広河原

大会結果

学校別出場者

奈良朱雀	男子	3名
郡山	男子	4名
添上	男子	4名

郡山 B と 畝傍は直前の体調不良のため不参加

結果(成績)

郡山	7位(A隊)
添上	13位(A隊)
奈良朱雀	参考記録(A隊)